

看護教育セミナーを開催しました

プロジェクトが目指す「自律した看護師の育成」を推進するため、指導者となる看護師の知識のアップデートと日本人専門家と情報共有、意見交換を行うことを目的に看護教育セミナーを開催しました。日本から創傷ケアが専門の徳永専門家、看護教育が専門の末永専門家の2名を講師にお呼びしました。その他に、日本でフィジカルアセスメントを用いた演習について学んできたプロジェクトサイトのベトナム人看護師4名も研修の成果を発表しました。どの講義にも演習を取り入れられていて実用的な内容のセミナーになりました。

プログラム

講義テーマ/内容	講師
講義Ⅰ：科学的根拠に基づく創傷ケア - 最新創傷ケアの基本となる知識と技術- ・創傷ケアの歴史とエビデンスに基づいたケアの必要性について学習する。 ・臨床でのアセスメント方法と創傷ケアの実践について学習する	徳永恵子 氏 宮城大学 名誉教授
講義Ⅱ：フィジカルアセスメントを使った演習 症状や兆候の情報収集から患者の状態を判断する手法について知る。	2017年度厚生労働省医療技術等 国際展開推進事業・NCGM 事業 「カンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナムにおける看護臨床指導能力強化」 研修参加者4名(各回2名ずつ)
講義Ⅲ：新卒看護師のための記録様式を用いた学習支援 ・新人教育を担当する指導者に必要な教育的関わりの技術について知る。 ・臨床研修で新卒看護師が看護過程を学ぶための指導者の関わり方について学習する。	末永由理 氏 東京医療保健大学 教授

セミナーは合計で4か所の会場、311名の研修生が参加しました。研修生からは、創傷ケアについては「創には砂糖か蜂蜜を塗っているがどちらの方が良いのか」「ドレッシング材は何日ごとに交換するのか」といったような具体的なケア方法に関する質問が多くありました。また、実施している看護ケアについて「通知に記載しているので実施している」「医師が処方するので薬剤を投与している」と発言があり、エビデンスに基づくケア実践について意識を高めていく必要性を改めて認識しました。

セミナーに参加した保健局担当者からは、「今後、看護師がどんな役割を果たしていくべきか省内で議論したい」「通達通りに看護を実施している現状であるが、臨床の看護職がエビデンスを示し、それを元に適切かつ最新のケアが患者に提供できるよう保健局としても働きかけていきたい」といった発言が聞かれ、とても心強く感じました。



オープニングでは看護学校の学生が学校で習う「手洗い」をテーマにしたダンスを披露



ロールプレイを取り入れて患者情報から看護問題を抽出する支援方法について説明する末永専門家



演習モデルを使ってエビデンスに基づいた創傷ケアの演習を行う徳永専門家



看護師が患者状態を把握して看護を選択することの重要性を伝えるベトナム人看護師



各会場には各省で実施した指導者研修の写真をポスターにして掲示



『私たちはこんな看護師を育成する』をテーマにした参加者の誓いで「成長の木」を作成